



丸山博章さん  
和菓子作りについて、  
和菓子の歴史や作り方を  
詳しく説明してくれました。

深志高校北のバス通り沿いに瀟洒な構えのまるや菓子店があり、明るい店内には和洋の手作り菓子がならんでいます。先代の店主鼎さんは地元安曇の学校を卒業後、旭町の万寿堂で和菓子作りの手ほどきを受け、更に東京で修行し店を構えるまでになりましたが、空襲で焼け出され松本に帰ってきました。昭和五十七年まで松本駅前で主に和菓子製造卸をしていました

が、駅前整理事業に伴って現在地に引越し、和菓子店を開業しました。その頃この辺は食料品や雑貨など日常生活に欠かせない商店が軒を連ねる商店街でした。鼎さんは、昔気質の職人で仕事は早く丁寧ですが人任せに出来ない性分で、大量の受注にも未明から一人で作業していたということです。現店主の博章さんは、その頃から手伝っていた、将来は和菓子店を継ぐものと決めていました。このため高校を卒業すると東京の和洋の菓子専門学校に進学し、洋菓子を学ぶ一方で新しい感覚の和菓子が必要と考えるようになり、和菓子作りを取り

り組んできました。現在、先代から引き継いだ店内の陳列ケースにはロールケーキやショートケーキなどの洋菓子と並んで大福や最中など和菓子があります。特に「赤とんぼ」や「こぼれ萩」などと名付けられた和菓子は、季節感に溢れ、食べてしまうのが惜しいくらいです。ここ数年和菓子店が次々に廃業していますが、和菓子作りの熟練が必要以上に朝早くからの作業が多く、若い人がなかなか就いてくれないとともに、和菓子に必要な餡や吉野葛などといった特殊な材料の専門業者が廃業していることも背景にあるようです。丸山さんは「時代の変化で年々和菓子作りは難しくなっています。常にお客様の要望に応えられるよう心がけています」と話していました。

り組んできました。現在、先代から引き継いだ店内の陳列ケースにはロールケーキやショートケーキなどの洋菓子と並んで大福や最中など和菓子があります。特に「赤とんぼ」や「こぼれ萩」などと名付けられた和菓子は、季節感に溢れ、食べてしまうのが惜しいくらいです。ここ数年和菓子店が次々に廃業していますが、和菓子作りの熟練が必要以上に朝早くからの作業が多く、若い人がなかなか就いてくれないとともに、和菓子に必要な餡や吉野葛などといった特殊な材料の専門業者が廃業していることも背景にあるようです。丸山さんは「時代の変化で年々和菓子作りは難しくなっています。常にお客様の要望に応えられるよう心がけています」と話していました。

城北  
菓子づくり  
五十年  
丸山博章さん

令和元年 11 月 1 日現在	
総世帯数	3,678
総人口	7,852
男	3,723
女	4,129



### 城北地区 市政懇談会開催



5年ぶりの城北地区市政懇談会が、市長・部長さんが出席し10月8日城北公民館で行われました。初めに菅谷市長から「松本のまちづくり」について、これまでの成果と総仕上げに向けての説明がありました。今年9月のシンクタンク主要72市「都市力」評価で松本が全国10位にランキングされたことや、健康寿命延伸の最終命題である「生きがい」の創出につながるため、市民一人ひとりが意欲的に「自分磨き」に励み、生きることの「喜び」を実感できるように市政を総仕上げしたいと語りました。

続いて地元3町会の代表からの提案事項について懇談がありました。まず蟻ヶ崎台公民館長の鈴木延幸さんから、高齢化対策としての公共交通等移動手段の確保について要望があり、市側から利用者が減少傾向の中で増便は難しいが、ニーズを把握して考えたいとの回答がありました。次に民生児童委員会会長の蟻ヶ崎東の太田和成さんから、増え続ける放置空き家対策について質問があり、現在地区内では119戸の空き家があり、解体作業等に伴う様々な問題はあるが、建設部に気軽に相談してほしいとのことでした。最後に沢村町会長の曾根原力さんから、旧開智学校の国宝指定で観光客の急増が予想されるなか、お城の北の文化財を回る周回コースの定着要望があり、案内ボランティアの研修会を開いたり、パンフレット作成を前向きに考えたなどの回答がありました。60名ほどの参加者は熱心に答弁に聞き入り意見交換も行われ、「住みよい街づくり」を推進する城北地区への熱い思いが感じられる有意義な懇談会となりました。

続いて地元3町会の代表からの提案事項について懇談がありました。まず蟻ヶ崎台公民館長の鈴木延幸さんから、高齢化対策としての公共交通等移動手段の確保について要望があり、市側から利用者が減少傾向の中で増便は難しいが、ニーズを把握して考えたいとの回答がありました。次に民生児童委員会会長の蟻ヶ崎東の太田和成さんから、増え続ける放置空き家対策について質問があり、現在地区内では119戸の空き家があり、解体作業等に伴う様々な問題はあるが、建設部に気軽に相談してほしいとのことでした。最後に沢村町会長の曾根原力さんから、旧開智学校の国宝指定で観光客の急増が予想されるなか、お城の北の文化財を回る周回コースの定着要望があり、案内ボランティアの研修会を開いたり、パンフレット作成を前向きに考えたなどの回答がありました。60名ほどの参加者は熱心に答弁に聞き入り意見交換も行われ、「住みよい街づくり」を推進する城北地区への熱い思いが感じられる有意義な懇談会となりました。

